

IBM Contact Optimization

バージョン9 リリース1

2013 年 10 月 25 日

アップグレード・ガイド

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、31 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Contact Optimization バージョン 9、リリース 1、モディフィケーション 0 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Contact Optimization
Version 9 Release 1
October 25, 2013
Upgrade Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2003, 2013.

目次

第 1 章 アップグレードの概要	1	Contact Optimization を手動で登録する	16
アップグレード・ロードマップ	1	Contact Optimization のテーブルのマッピング	16
インストーラーの動作	2	Contact Optimization システム・テーブル・マッピングのリファレンス	17
インストールのモード	2	Contact Optimization コンタクト履歴テーブル・マッピングのリファレンス	18
サンプル応答ファイル	3	Contact Optimization のインストールの検証	18
Contact Optimization の資料とヘルプ	3		
第 2 章 Contact Optimization アップグレードの計画	7	第 5 章 Contact Optimization のアンインストール	21
前提条件	7		
すべての IBM EMM 製品のアップグレード前提条件	9	第 6 章 configTool	23
Contact Optimization アップグレード・ワークシート	10	IBM 技術サポートへの連絡	29
第 3 章 Contact Optimization のアップグレード	13	特記事項	31
第 4 章 Contact Optimization の構成	15	商標	33
Contact Optimization システム・テーブルの作成とデータの設定を手動で行う	15	プライバシー・ポリシーおよび利用条件の考慮事項	33

第 1 章 アップグレードの概要

Contact Optimization のアップグレードは、Contact Optimization をアップグレードして構成するときに完了します。Contact Optimization アップグレード・ガイドには、Contact Optimization のアップグレードおよび構成に関する詳細な情報が含まれています。

アップグレード・ロードマップ・セクションを使用して、Contact Optimization アップグレード・ガイドの使用に関する幅広い理解を得てください。

アップグレード・ロードマップ

アップグレード・ロードマップを使用して、Contact Optimization のアップグレードに必要な情報を素早く見つけられます。

以下の表を使用して、Contact Optimization のアップグレードに際して完了している必要のあるタスクを確認できます。

表 1. Contact Optimization アップグレード・ロードマップ

トピック	情報
『第 1 章 アップグレードの概要』	この章では、以下の情報が提供されます。 <ul style="list-style-type: none">• 2 ページの『インストーラーの動作』• 2 ページの『インストールのモード』• 3 ページの『Contact Optimization の資料とヘルプ』
7 ページの『第 2 章 Contact Optimization アップグレードの計画』	この章では、以下の情報が提供されます。 <ul style="list-style-type: none">• 7 ページの『前提条件』• 9 ページの『すべての IBM EMM 製品のアップグレード前提条件』• 10 ページの『Contact Optimization アップグレード・ワークシート』
13 ページの『第 3 章 Contact Optimization のアップグレード』	この章では、Contact Optimization のアップグレード方法について説明します。
15 ページの『第 4 章 Contact Optimization の構成』	この章では、以下の情報が提供されます。 <ul style="list-style-type: none">• 15 ページの『Contact Optimization システム・テーブルの作成とデータの設定を手動で行う』• 16 ページの『Contact Optimization を手動で登録する』• 16 ページの『Contact Optimization のテーブルのマッピング』• 18 ページの『Contact Optimization のインストーラーの検証』

表 1. Contact Optimization アップグレード・ロードマップ (続き)

トピック	情報
21 ページの『第 5 章 Contact Optimization のアンインストール』	この章では、Contact Optimization のアンインストール方法について説明します。
23 ページの『第 6 章 configTool』	この章では、 configTool ユーティリティーの使用方法について説明します。

インストーラーの動作

どの IBM® EMM 製品をインストールする場合も、スイート・インストーラーおよび製品インストーラーを使用する必要があります。例えば Contact Optimization をインストールする場合は、IBM EMM スイート・インストーラーおよび IBM Contact Optimization インストーラーを使用する必要があります。

IBM EMM スイート・インストーラーおよび製品インストーラーを使用する前に、以下のガイドラインを確認してください。

- スイート・インストーラーおよび製品インストーラーは、製品のインストール先のコンピューターと同じディレクトリーにある必要があります。マスター・インストーラーが含まれるディレクトリーに複数のバージョンの製品インストーラーが存在する場合、マスター・インストーラーによってインストール・ウィザードの IBM EMM 製品画面に表示されるのは、必ず製品の最新バージョンとなります。
- IBM EMM 製品のインストール直後にパッチをインストールする場合は、パッチのインストーラーがスイートおよび製品のインストーラーと同じディレクトリーにあるようにしてください。
- IBM EMM インストールのデフォルトの最上位ディレクトリーは /IBM/EMM (UNIX) または C:\IBM\EMM (Windows) です。ただし、このディレクトリーはインストール時に変更できます。

インストールのモード

IBM EMM スイート・インストーラーは、GUI モード、コンソール・モード、またはサイレント・モード (無人モードとも呼ぶ) のいずれかのモードで実行できます。Contact Optimization をインストールする際は要件に見合ったモードを選択してください。

GUI モード

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して Contact Optimization をインストールするには、Windows の GUI モード、または UNIX の X Window System モードを使用します。

コンソール・モード

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して Contact Optimization をインストールするには、コンソール・モードを使用します。

注: コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。ANSI などその他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情報が読み取れなくなります。

サイレント・モード

Contact Optimization を複数回インストールするには、サイレント・モード (無人モード) を使用します。サイレント・モードは、インストールに応答ファイルを使用し、インストール・プロセスの間にユーザー入力を必要としません。

サンプル応答ファイル

Contact Optimization のサイレント・インストールをセットアップするため、応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルを作成するには、サンプル応答ファイルを利用できます。サンプル応答ファイルは、インストーラーの ResponseFiles 圧縮アーカイブに含まれています。

次の表には、サンプル応答ファイルに関する情報が示されています。

表 2. サンプル応答ファイルの説明

サンプル応答ファイル	説明
installer.properties	IBM EMM マスター・インストーラーのサンプル応答ファイル。
installer_product initials and product version number.properties	Contact Optimization マスター・インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、installer_ucn.n.n.n.properties (ここで、n.n.n.n はバージョン番号) は、Campaign インストーラーの応答ファイルです。
installer_report pack initials, product initials, and version number.properties	レポート・パック・インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、installer_urpc.properties は、Campaign レポート・パック・インストーラーの応答ファイルです。

Contact Optimization の資料とヘルプ

Contact Optimization には、ユーザー、管理者、および開発者向けの資料とヘルプが用意されています。

以下の表は、Contact Optimization を使用し始める際の情報を見つける参考にしてください。

表 3. 準備と開始

タスク	資料
新機能、既知の問題、および回避策を表示する	IBM Contact Optimization リリース・ノート

表 3. 準備と開始 (続き)

タスク	資料
Contact Optimization データベースの構造について知る	Contact Optimization システム・テーブルおよびデータ・ディクショナリー
Contact Optimization をインストールまたはアップグレードする	次のいずれかのガイドを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • IBM Contact Optimization インストール・ガイド • IBM Contact Optimization アップグレード・ガイド

以下の表は、Contact Optimization を構成して使用する際の情報を見つける参考にしてください。

表 4. Contact Optimization の構成と使用

タスク	資料
<ul style="list-style-type: none"> • Contact Optimization セッションを作成する • Contact Optimization プロセスを構成する • マーケティング・キャンペーンにおける最適化されたコンタクトを使用する 	IBM Contact Optimization ユーザー・ガイド

以下の表は、Contact Optimization を使用していて問題に直面したときにヘルプを得る際の情報を見つける参考にしてください。

表 5. ヘルプを得る

タスク	指示
<ul style="list-style-type: none"> • Contact Optimization のインストールにおけるエラーのトラブルシューティング • Contact Optimization のセッションにおけるエラーのトラブルシューティング • Contact Optimization のパフォーマンスを改善させる 	IBM Contact Optimization トラブルシューティング・ガイド
オンライン・ヘルプを開く	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「ヘルプ」 > 「このページのヘルプ」を選択すると、コンテキスト・ヘルプ・トピックが開きます。 2. ヘルプ・ウィンドウの「ナビゲーションの表示 (Show Navigation)」アイコンをクリックすると、ヘルプ全体が表示されます。
PDF を入手する	<p>次のいずれかの方法を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ヘルプ」 > 「製品資料」を選択すると、Contact Optimization PDF にアクセスできます。 • 「ヘルプ」 > 「IBM EMM Suite のすべての資料」を選択すると、使用可能なすべての資料にアクセスできます。

表 5. ヘルプを得る (続き)

タスク	指示
サポートを得る	http://www.ibm.com/support から IBM サポート・ポータルにアクセスします。

第 2 章 Contact Optimization アップグレードの計画

現在のバージョンの Contact Optimization 固有のガイドラインを理解した後、Contact Optimization のインストールをアップグレードします。

注: 9.x より前のバージョンの Contact Optimization は Optimize という名前です。

Contact Optimization のアップグレードには次のガイドラインを使用してください。

表 6. Contact Optimization アップグレード・シナリオ

ソース・バージョン	アップグレード・パス
バージョン 7.3.0 以降	Contact Optimization をアップグレードするには、以下の手順に従ってください。 <ol style="list-style-type: none">Contact Optimization バージョン 8.6.0 にアップグレードします。バージョン 8.6.0 から 9.1.0 へのインプレース・アップグレードを実行します。
バージョン 8.5.0 以降	現在のバージョンの Contact Optimization に対してインプレース・アップグレードを実行します。 重要: Contact Optimization と Campaign は、同じバージョン・レベルでなければなりません。例えば、Campaign をバージョン 9.1.0 にアップグレードしてから Contact Optimization をバージョン 9.1.0 にアップグレードする必要があります。

前提条件

IBM EMM 製品をインストールまたはアップグレードするには、その前に、ご使用のコンピューターがすべてのソフトウェアおよびハードウェアの前提条件を満たしていることを確認する必要があります。

システム要件

システム要件について詳しくは、「推奨ソフトウェア環境および最小システム要件」ガイドを参照してください。

ネットワーク・ドメイン要件

スイートとしてインストールされる IBM EMM 製品は同じネットワーク・ドメインにインストールする必要があります。これは、クロスサイト・スクリプティングで生じ得るセキュリティー・リスクを制限することを目的としたブラウザー制限に準拠するためです。

重要: 最高のパフォーマンスを得るには、Contact Optimization を専用のシステムにインストールし、そこに他の IBM EMM 製品をインストールしないでください。

Contact Optimization は、計算およびデータ処理リソースを大量に必要とします。Contact Optimization を専用環境で作動させると、パフォーマンス調整において最大の制御性と柔軟性を得られます。

JVM 要件

スイートに含まれる IBM EMM アプリケーションは、専用 Java™ 仮想マシン (JVM) に配置する必要があります。IBM EMM 製品は、Web アプリケーション・サーバーが使用する JVM をカスタマイズします。JVM に関連するエラーが発生する場合、IBM EMM 製品専用の Oracle WebLogic または WebSphere®ドメインを作成する必要があります。

知識要件

IBM EMM 製品をインストールするには、製品をインストールする環境全般に関する知識が必要です。この知識には、オペレーティング・システム、データベース、および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれます。

インターネット・ブラウザ設定

ご使用のインターネット・ブラウザが、以下の設定に準拠していることを確認してください。

- ブラウザーは Web ページをキャッシュに入れてはなりません。
- ブラウザーはポップアップ・ウィンドウをブロックしてはなりません。

アクセス権限

インストール作業を完了するため、以下のネットワーク権限を保持していることを確認してください。

- 必要なすべてのデータベースに対する管理アクセス権限。
- Web アプリケーション・サーバーおよび IBM EMM コンポーネントを実行するために使用するオペレーティング・システム・アカウントの関連ディレクトリーおよびサブディレクトリーに対する読み取りおよび書き込みアクセス権限
- 編集する必要があるすべてのファイルに対する書き込み権限。
- インストール・ディレクトリーやアップグレード時のバックアップ・ディレクトリーなどの、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリーに対する書き込み権限。
- インストーラーを実行するための適切な読み取り/書き込み/実行の権限。

Web アプリケーション・サーバーの管理パスワードを保持していることを確認してください。

UNIX の場合、IBM 製品のすべてのインストーラー・ファイルはフル権限 (例えば、rwxr-xr-x) が必要です。

JAVA_HOME 環境変数

IBM EMM 製品をインストールするコンピューターに JAVA_HOME 環境変数が定義されている場合、サポートされる JRE のバージョンがこの変数で指定されていること

を確認してください。システム要件について詳しくは、「推奨ソフトウェア環境および最小システム要件」ガイドを参照してください。

JAVA_HOME 環境変数が JRE 1.6 を指していることを確認します。**JAVA_HOME** 環境変数が正しくない JRE を指している場合、IBM EMM インストーラーを実行する前に、その **JAVA_HOME** 変数をクリアする必要があります。

以下のいずれかの方法により、**JAVA_HOME** 環境変数をクリアできます。

- Windows: コマンド・ウィンドウで、**set JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、Enter キーを押します。
- UNIX: 端末で、**export JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、Enter キーを押します。

export JAVA_HOME= (空のままにする)

環境変数をクリアした後、IBM EMM インストーラーは、インストーラーにバンドルされている JRE を使用します。インストールの完了後、この環境変数を再設定できます。

Marketing Platform の要件

何らかの IBM EMM 製品をインストールする前に、Marketing Platform をインストールする必要があります。一緒に機能する製品のグループごとに、Marketing Platform を 1 回だけインストールする必要があります。各製品インストーラーは、必要な製品がインストールされているかどうかを検査します。ご使用の製品またはバージョンが Marketing Platform に登録されていない場合、インストールを続行する前に、Marketing Platform をインストールまたはアップグレードすることを求めるメッセージが表示されます。「設定」>「構成」ページでプロパティを設定するには、その前に、Marketing Platform が配置済みであり、稼働している必要があります。

Campaign の要件

Contact Optimization をインストールする前に、Campaign をインストールして構成する必要があります。

注: UNIX にインストールする場合、Web アプリケーション・サーバーで、**Djava.awt.headless** プロパティを true に設定しなければならないことがあります。この設定は、Contact Optimization レポートを表示できない場合にのみ必要です。詳しくは、「*IBM Campaign* インストール・ガイド」を参照してください。

Contact Optimization は Campaign システム・テーブル・データ・ソースを使用するので、Contact Optimization 用に追加のデータ・ソースを準備する必要はありません。

すべての IBM EMM 製品のアップグレード前提条件

シームレスなアップグレード体験を確実にするために、Contact Optimization をアップグレードする前に、権限、オペレーティング・システム、および正しい知識に関するすべての要件を満たしてください。

以前のインストールで生成された応答ファイルの削除

バージョン 8.6.0 より前からアップグレードする場合、以前の Contact Optimization インストールで生成された応答ファイルを削除する必要があります。古い応答ファイルは 8.6.0 以降のインストーラーとは互換性がありません。

古い応答ファイルを削除しないと、インストーラーを実行する際にインストーラー・フィールドに間違ったデータが事前に取り込まれてしまったり、インストーラーによって一部のファイルがインストールできなかつたり、構成ステップがスキップされてしまったりする可能性があります。

IBM 応答ファイルの名前は `installer.properties` です。

それぞれの製品の応答ファイルの名前は、`installer_productversion.properties` です。

インストーラーは、インストール時に指定したディレクトリーに応答ファイルを作成します。デフォルトの場所はユーザーのホーム・ディレクトリーです。

UNIX のユーザー・アカウント要件

UNIX の場合、インストーラーが以前のインストールの検出に失敗していない限り、製品をインストールしたユーザー・アカウントでアップグレードを完了しなければなりません。

32 ビット・バージョンから 64 ビット・バージョンへのアップグレード

Contact Optimization を 32 ビット・バージョンから 64 ビット・バージョンに移行する場合、以下のタスクを完了していることを確認してください。

- 製品データ・ソースのデータベース・クライアント・ライブラリーが 64 ビットであることを確認する。
- すべての関連ライブラリー・パス (例えば開始スクリプトや環境スクリプト) が、64 ビット・バージョンのデータベース・ドライバーを正しく参照していることを確認する。

Contact Optimization アップグレード・ワークシート

Contact Optimization アップグレード・ワークシートを使用して、Contact Optimization のアップグレード・システム・テーブルおよび Contact Optimization のアップグレードに必要なその他の IBM EMM 製品を含むデータベースに関する情報を収集します。

Campaign データベース情報

Contact Optimization のインストール・ウィザードでは、Campaign システム・テーブル・データベースにアクセスして Contact Optimization テーブルを作成する必要があります。インストーラーがデータベース表をセットアップして Contact Optimization を適切に構成できるようにするには、Campaign インストールに関する以下の情報を収集しなければなりません。

表 7. データベース情報ワークシート

データベース情報	メモ
Campaign データベースが Unicode で構成されているかどうか確認してください	
Campaign データベース・タイプ データベース・タイプが DB2® で UNIX システム上にインストールされている場合には、DB2 インスタンス・パスを記します。 データベース・タイプが Oracle の場合、Oracle ホーム・ディレクトリー・パスを記します。	
Campaign データベース・ホスト名	
Campaign データベース・ポート	
Campaign データベース名	
Campaign データベース・アカウントのユーザー名	
Campaign データベース・アカウントのパスワード	
Campaign データベースの JDBC 接続 URL 指定された値に基づいてインストーラーは接続 URL を提供しますが、その URL が正しいことを確認してください。 例えば、SQL サーバーの場合、JDBC 接続 URL の形式は以下のとおりです。 <code>jdbc:sqlserver://your_db_host:your_db_port; databaseName=your_db_name</code>	
Campaign Web アプリケーション・サーバーがインストールされているシステムの名前。	
Campaign アプリケーション・サーバーが listen するポート。 SSL を実装する予定の場合、SSL ポートについて情報を取得します。	
配置システムのネットワーク・ドメイン。	
CAMPAIGN_HOME へのパス	

Contact Optimization と Campaign を別々のシステムにインストールする場合、Campaign インストールの Campaign ディレクトリーを Contact Optimization をホストするシステムのネットワーク・ドライブとしてマウントする必要があります。bin ディレクトリーの **svrstop** ユーティリティーは、Contact Optimization ホスト上の権限で実行する必要があります。CAMPAIGN_HOME を、Campaign インストール・ディレクトリーへの完全修飾パスで定義します。

Marketing Platform データベース情報

Contact Optimization のインストール・ウィザードでは、Marketing Platform システム・テーブル・データベースにアクセスして製品を登録できます。

IBM EMM インストーラーを実行するたびに、Marketing Platform システム・テーブル・データベースの以下のデータベース接続情報を入力する必要があります。

- データベース・タイプ
- データベース・ホスト名
- データベース・ポート
- データベース名
- データベース・アカウントのユーザー名とパスワード
- Marketing Platform データベースの JDBC 接続 URL

指定された値に基づいてインストーラーは接続 URL を提供します。ただし、その URL が正しいことを確認してください。

第 3 章 Contact Optimization のアップグレード

既存の Contact Optimization を上書きして、Contact Optimization をアップグレードできます。

注: Campaign と Contact Optimization を一緒にアップグレードする必要があります。Campaign と Contact Optimization を一緒にアップグレードしない場合、Contact Optimization リスナーを手動で停止させなければなりません。

Contact Optimization 8.6.0 以降のインプレース・アップグレードを完了できます。インプレース・アップグレードは既存のインストールを上書きします。

Contact Optimization をアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. Contact Optimization リスナーを停止します。Contact Optimization リスナーを停止する前に、**ACOServer** スクリプトに `CAMPAIGN_HOME` へのパスを正しく設定していることを確認してください。

ACOServer スクリプトを使用して、Contact Optimization リスナーを停止します。**ACOServer** スクリプトは、Contact Optimization インストールの `bin` ディレクトリーにあります。

Contact Optimization リスナーを停止するには、以下のコマンドを実行します。

- Windows の場合: **AC0server.bat stop**
 - UNIX の場合: **./AC0server.sh stop**
2. Campaign および Contact Optimization のホーム・ディレクトリーのバックアップをとります。
 3. Campaign および Marketing Platform システム・テーブルのバックアップをとります。
 4. IBM EMM インストーラーを実行して **Contact Optimization** を選択します。

重要: 以前の Contact Optimization インストール・ディレクトリーを選択します。例えば、`C:¥IBM¥Optimize`。

プロンプトが表示されたら、「**自動データベース・セットアップ**」を選択します。「**手動データベース・セットアップ**」を選択する場合、適切なデータベースに対して Contact Optimization SQL スクリプトを実行して、Contact Optimization システム・テーブルを手動で作成して、これにデータを読み込む必要があります。

5. Campaign が配置されている Web アプリケーション・サーバーが実行されていない場合は始動します。
6. Contact Optimization リスナーを始動します。

ACOServer スクリプトを使用して、Contact Optimization リスナーを始動します。

Contact Optimization リスナーを始動するには、以下のコマンドを実行します。

- Windows の場合: **AC0server.bat start**
 - UNIX の場合: **./AC0server.sh start**
7. セッション・レベルの拡張設定を使用しているすべての Contact Optimization セッションで、以下のステップを実行します。
 - a. Contact Optimization セッションのセッション・レベル拡張設定を編集します。
 - b. セッション・レベル設定を保存します。

設定を保存することにより、現行の Contact Optimization セッションのセッション・レベル拡張設定がアップグレード中に確実に保持されます。拡張設定を保存しない場合、以下のプロパティーが **False** に設定されているかのように、または **True** に設定されているかのように振る舞う可能性があります。

- **ContinueOnGenerationLoopError**
- 最大キャパシティー消費を有効にする
- セッション・テーブル統計を更新する

第 4 章 Contact Optimization の構成

Contact Optimization には、独立型の Web アプリケーションはありません。
Campaign をインストールし、インストール済み環境を構成、配置、検証したら、
Contact Optimization を構成してください。

Contact Optimization システム・テーブルの作成とデータの設定を手動で行う

インストール時に、Contact Optimization インストーラーは Campaign システム・テーブルにアクセスして Contact Optimization システム・テーブルを自動的に作成します。システム・テーブルが自動的に作成されない場合、Contact Optimization SQL スクリプトを該当するデータベースに対して実行して、Contact Optimization システム・テーブルの作成とデータの設定を手動で行う必要があります。

以下の手順を実行して、Contact Optimization システム・テーブルの作成とデータの設定を手動で行います。

1. Contact Optimization システム・テーブルを作成して、これにデータを設定するには、SQL スクリプトを Campaign システム・テーブルが入っているデータベースまたはスキーマに対して実行します。

これらの SQL スクリプトは、Contact Optimization インストール済み環境の下の `ddl` ディレクトリーにあります。

2. Campaign システム・テーブルが Unicode 用に構成されている場合、Contact Optimization インストール済み環境の下の `ddl/unicode` ディレクトリーにある適切なスクリプトを使用してください。

以下の表にある情報を使用して、適切なスクリプトをデータベースに対して実行して Contact Optimization システム・テーブルを手動で作成します。

表 8. Contact Optimization システム・テーブルを作成するためのスクリプト：

データ・ソース・タイプ	スクリプト名
IBM DB2	<code>aco_systab_db2.sql</code>
Microsoft SQL Server	<code>aco_systab_sqlsvr.sql</code>
Oracle	<code>aco_systab_ora.sql</code>

Contact Optimization テーブルにデータを読み込むためのスクリプトは `aco_populate_tables.sql` の 1 つだけです。テーブルにデータを設定するために使用する `aco_populate_tables.sql` スクリプトに相当する Unicode のスクリプトはありません。

Contact Optimization を手動で登録する

Contact Optimization を Marketing Platform に登録すると、メニュー項目をインポートしたり構成プロパティを設定したりできます。Contact Optimization インストーラーがインストール・プロセス時に Marketing Platform システム・テーブルにアクセスできない場合は、**configTool** ユーティリティを実行して手動で Contact Optimization を登録する必要があります。

configTool ユーティリティをファイルの数と同じ回数実行します。**configTool** ユーティリティは、Marketing Platform インストール済み環境の下の `tools/bin` ディレクトリにあります。

ガイドラインとして以下のサンプル・コマンドを使用して手動で Contact Optimization を登録します。

- `configTool -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu|Campaign" -f "full_path_to_optimize_installation_directory%conf%optimize_navigation.xml"`
- `configTool -v -i -o -p "Affinium|Campaign|about|components" -f "full_path_to_optimize_installation_directory%conf%optimize_subcomponent_version.xml"`

すべての Contact Optimization 構成プロパティは Campaign に組み込まれているので、構成プロパティを登録する必要はありません。

Contact Optimization のテーブルのマッピング

Contact Optimization システム・テーブル、コンタクト履歴テーブル、およびセグメント・メンバーシップ・テーブルを Campaign テーブルにマッピングすることで、Contact Optimization と Campaign の間でデータを交換することができます。

注: 戦略的セグメントで使用する Campaign 内のセグメント・メンバーシップ・システム・テーブルのマッピングはオプションです。オーディエンスのセグメント・メンバーシップ・システム・テーブルをマッピングするのは、戦略的セグメントを使用するフローチャートまたは Contact Optimization セッションでオーディエンスを使用する場合だけにしてください。

Campaign のシステム・テーブルのマッピングについては、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

以下の手順を実行して、Contact Optimization のテーブルのマッピングを行います。

1. すべてのシステム・テーブルをマッピングします。
2. すべてのコンタクト履歴テーブルをマッピングします。

Campaign 構成内の各オーディエンス・レベルにコンタクト履歴テーブルがあることを確認します。コンタクト履歴テーブルそれぞれをマッピングする必要があります。追加のコンタクト履歴テーブルについては、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

- オプション: 戦略的セグメントを使用する Contact Optimization セッション内で使用されるオーディエンスごとに、オーディエンスのセグメント・メンバーシップ・システム・テーブルを、セグメント・メンバーを定義するデータベース表にマッピングします。

戦略的セグメントを使用する場合の要件は以下の通りです。

戦略的セグメントを使用する予定の場合、Campaign 構成の各オーディエンス・レベルに対してセグメント・メンバーシップ・テーブルがあることを確認してください。それぞれのセグメント・メンバーシップ・テーブルをマッピングする必要があります。

オーディエンス・セグメント・メンバーシップ・テーブルに 2 つのインデックスを作成します。最初のインデックスは SegmentID に、2 番目のインデックスはオーディエンス・レベル列に作成します。出荷時の UA_SegMembership テーブルは、CustomerID と SegmentID にインデックスが設定されています。

システム・テーブルと戦略的セグメントについては、「IBM Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

Contact Optimization システム・テーブル・マッピングのリファレンス

Contact Optimization を Campaign と統合するには、すべての Contact Optimization システム・テーブルを Campaign テーブルにマッピングします。

Campaign の Contact Optimization テーブルをマッピングすることで、Contact Optimization と Campaign の間でデータを交換することができます。すべての Contact Optimization システム・テーブル、コンタクト履歴テーブル、およびセグメント・メンバーシップ・テーブルを Campaign テーブルにマッピングします。

以下の表を参考にして、Contact Optimization システム・テーブルと対応するデータベース表に関する情報を収集します。

表 9. Contact Optimization システム・テーブル・マッピング

Contact Optimization システム・テーブル	データベース表
Optimize セッション・テーブル	UACO_OptSession
Optimize プロセス・テーブル	UACO_OptimizeProcess
Optimize 実行履歴テーブル	UACO_SesnRunHist
Optimize セッション・セグメント・テーブル	UACO_SesnSegment
Optimize オファー・セグメント・テーブル	UACO_OfferSeg
Optimize セッション・オファー・テーブル	UACO_SesnOffer
Optimize ルール・テーブル	UACO_Rule
Optimize 例外ルール・テーブル	UACO_RException
Optimize 例外ルール制約テーブル	UACO_RExConstraint
Optimize ルール制約テーブル	UACO_RConstraint
Optimize ルール・オファー・リスト・テーブル	UACO_ROfferList

表9. Contact Optimization システム・テーブル・マッピング (続き)

Contact Optimization システム・テーブル	データベース表
Optimize ルール・オファー・テーブル	UACO_ROffer
Optimize ルール・セグメント・テーブル	UACO_RSegment
Optimize 推奨コンタクト・ベース・テーブル	UACO_PCTBase
Optimize 推奨属性ベース・テーブル	UACO_POABase
Optimize 最適化済みコンタクト・ベース・テーブル	UACO_OCTBase

Contact Optimization コンタクト履歴テーブル・マッピングのリファレンス

Contact Optimization を Campaign と統合するには、すべての Contact Optimization コンタクト履歴テーブルを Campaign テーブルにマッピングします。

以下の表は、Contact Optimization コンタクト履歴テーブルとそれらに対応するデータベース表をリストしています。

表10. Contact Optimization コンタクト履歴テーブル・マッピング

コンタクト履歴テーブル	データベース表
顧客コンタクト履歴テーブル	UA_ContactHistory
顧客詳細コンタクト履歴テーブル	UA_DtlContactHist

追加するオーディエンス・レベル・テーブルの名前は、Contact Optimization の構成ごとに固有です。

Contact Optimization のインストールの検証

Contact Optimization が正しくインストールされている場合、Campaign バッチ・フローチャートをビルドする際に Campaign で Optimize プロセスを使用できるはずです。これを確認するには、IBM EMM にログインして、「Campaign」 > 「Contact Optimizations」にアクセスできることを確認します。

注: Contact Optimization が正しくインストールまたはアップグレードされていることを確認する前に、**Affinium|Campaign|acoInstalled** プロパティが true に設定されていることを確認してください。**Affinium|Campaign|acoInstalled** が false に設定されていると、Contact Optimization がインストールされていないことを示すエラー・メッセージが出ます。

Contact Optimization テーブルを Campaign テーブルにマッピングした後、IBM EMM コンソールからログアウトしてからログインしないと **Campaign > Contact Optimizations** が表示されないことがあります。

以下の手順を実行して、Contact Optimization のインストールを検証します。

1. IBM EMM コンソールにログインします。

2. メニューから **Contact Optimizations** を選択します。「Contact Optimization セッション一覧」ページが表示されます。Contact Optimization セッションが表示され、管理できるようになっていることを確認します。

第 5 章 Contact Optimization のアンインストール

Contact Optimization アンインストーラーを実行して、Contact Optimization をアンインストールします。Contact Optimization アンインストーラーを実行すると、インストール・プロセスの間に作成されたファイルが削除されます。例えば、構成ファイル、インストーラーの登録情報、およびユーザー・データなどのファイルがコンピューターから削除されます。

IBM EMM 製品をインストールすると、アンインストーラーが `Uninstall_Product` ディレクトリーに組み込まれます。ここで、`Product` は IBM 製品の名前です。Windows の場合、「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」リストにも項目が追加されます。

アンインストーラーを実行するのではなくインストール・ディレクトリー内のファイルを手動で削除すると、同じ場所に IBM 製品を後ほど再インストールする場合にインストール結果が不完全なものになる可能性があります。製品アンインストールの後でも、データベースは削除されません。アンインストーラーは、インストール中に作成されたデフォルト・ファイルのみを削除します。インストール後に作成または生成されたファイルは、削除されません。

注: UNIX の場合、Contact Optimization をインストールしたユーザー・アカウントを使用して、アンインストーラーを実行する必要があります。

Contact Optimization をアンインストールするには、以下のタスクを実行します。

1. Contact Optimization リスナーを停止します。
2. システム・テーブル・データベースから Contact Optimization テーブルを削除するには、Contact Optimization インストール済み環境の `ddl` ディレクトリーで、**`aco_systab_drop.sql`** スクリプトを実行します。製品インストール・ディレクトリーに `ddl` ディレクトリーが既存である場合、その `ddl` ディレクトリーに用意されているスクリプトを実行して、システム・テーブル・データベースからテーブルを削除します。
3. 以下のいずれかのステップを実行して Contact Optimization をアンインストールします。
 - `Uninstall_Product` ディレクトリー内にある Contact Optimization アンインストーラーをダブルクリックします。アンインストーラーは、Contact Optimization をインストールする際に使用したモードで実行します。
 - コンソール・モードを使用して Contact Optimization をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

`Uninstall_Product -i console`

- サイレント・モードを使用して Contact Optimization をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

`Uninstall_Product -i silent`

サイレント・モードを使用して Contact Optimization をアンインストールする場合、アンインストール・プロセスでは、ユーザーとの対話用のダイアログが表示されません。

注: オプションを指定せずに Contact Optimization をアンインストールすると、Contact Optimization アンインストーラーは Contact Optimization のインストール時に使用されたモードで実行されます。

第 6 章 configTool

「構成」ページのプロパティおよび値は、システム・テーブルに保管されています。configTool ユーティリティを使用して、構成設定をシステム・テーブルにインポートしたり、システム・テーブルからエクスポートしたりできます。

configTool を使用する状況

configTool は、次のような場合に使用することがあります。

- Campaign と共に提供されるパーティションおよびデータ・ソース・テンプレートをインポートする場合。その後、それを「構成」ページで変更したり複製したりできます。
- 製品インストーラーによって自動的にプロパティをデータベースに追加できないときに IBM EMM 製品を登録 (構成プロパティをインポート) する場合。
- バックアップ用に XML バージョンの構成設定をエクスポートする、あるいは IBM EMM の別のインストール済み環境にインポートする場合。
- 「**カテゴリーの削除**」リンクのないカテゴリーを削除する場合。これを行うには、configTool を使用して構成をエクスポートし、カテゴリーを作成する XML を手動で削除してから、編集した XML を configTool を使用してインポートします。

重要: このユーティリティは、構成プロパティおよびそれらの値が含まれる Marketing Platform システム・テーブル・データベースの `usm_configuration` および `usm_configuration_values` テーブルを変更します。最適な結果を得るには、これらのテーブルのバックアップ・コピーを作成するか、configTool を使って既存の構成をエクスポートした結果のファイルをバックアップしてください。こうすると、configTool を使ってインポートするときにエラーが発生した場合でも、構成を復元することが可能です。

構文

```
configTool -d -p "elementPath" [-o]
```

```
configTool -i -p "parent ElementPath" -f importFile [-o]
```

```
configTool -x -p "elementPath" -f exportFile
```

```
configTool -vp -p "elementPath" -f importFile [-d]
```

```
configTool -r productName -f registrationFile [-o] configTool -u  
productName
```

コマンド

```
-d -p "elementPath" [o]
```

構成プロパティ階層のパスを指定して、構成プロパティとその設定を削除します。

エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。それらを得るには、「構成」ページの目的のカテゴリまたはプロパティを選択して、右のペインにある括弧内に示されているパスを確認します。構成プロパティの階層のパスを | 文字を使用して区切り、パスを二重引用符で囲みます。

次のことに注意してください。

- このコマンドで削除できるのは、アプリケーション内のカテゴリおよびプロパティのみで、アプリケーション全体は削除できません。アプリケーション全体を登録解除するには、`-u` コマンドを使用します。
- 「構成」ページに「**カテゴリの削除**」リンクのないカテゴリを削除するには、`-o` オプションを使用します。

`-d` を指定した `-vp` コマンドを使用する場合、`configTool` はユーザーが指定するパスにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定する XML ファイルに含まれていない場合)。

`-i -p "parentElementPath" -f importFile [o]`

指定した XML ファイルから構成プロパティおよびそれらの設定をインポートします。

インポートを行うには、カテゴリのインポート先とする親エレメントへのパスを指定します。`configTool` ユーティリティは、パスに指定するカテゴリの下にプロパティをインポートします。

最上位の下の任意のレベルにカテゴリを追加できますが、最上位カテゴリと同じレベルにカテゴリを追加することはできません。

親エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。それらを得るには、「構成」ページの必要なカテゴリまたはプロパティを選択して、右のペインにある括弧内に示されたパスを確認します。構成プロパティの階層のパスを | 文字を使用して区切り、パスを二重引用符で囲みます。

`tools/bin` ディレクトリーからの相対的なインポート・ファイル・ロケーションを指定するか、絶対ディレクトリー・パスを指定することができます。相対パスを指定する、あるいはパスを指定しない場合、`configTool` はまず `tools/bin` ディレクトリーから相対的な位置にあるファイルを探します。

デフォルトでは、このコマンドは既存のカテゴリを上書きしませんが、`-o` オプションを使用すると上書きを強制することができます。

`-x -p "elementPath" -f exportFile`

構成プロパティおよびその設定を、指定した名前の XML ファイルにエクスポートします。

すべての構成プロパティをエクスポートするか、構成プロパティ階層のパスを指定することで特定のカテゴリのみをエクスポートします。

エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。それらを得るには、「構成」ページの目的のカテゴリまたはプロパティを選択して右側のペインにある括弧内に示されたパスを確認します。構成プロパティの階層のパスを | 文字を使用して区切り、パスを二重引用符で囲みます。

現行ディレクトリーから相対のエクスポート・ファイル・ロケーションを指定するか、絶対ディレクトリー・パスを指定することができます。ファイル指定に区切り記号 (UNIX の場合は /、Windows の場合は \ または ¥) が含まれていない場合、configTool はファイルを Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーの下に作成します。xml 拡張子を指定しないと、configTool によって追加されます。

-vp -p "elementPath" -f importFile [-d]

このコマンドは、主に手動アップグレードにおける構成プロパティのインポートに使用されます。新しい構成プロパティが含まれるフィックスパックを適用し、その後にアップグレードする場合、手動アップグレード・プロセスの一部として構成ファイルをインポートすると、フィックスパックを適用したときに設定された値がオーバーライドされる場合があります。-vp コマンドを使用すると、インポートを行っても、それ以前に設定された構成値はオーバーライドされません。

重要: configTool ユーティリティーを -vp オプションを指定して使用したら、変更が適用されるように、Marketing Platform がデプロイされている Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

-d を指定した -vp コマンドを使用する場合、configTool はユーザーが指定するパスにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定する XML ファイルに含まれていない場合)。

-r productName -f registrationFile

アプリケーションを登録します。登録ファイルのロケーションは、tools/bin ディレクトリーからの相対パスで指定することも、絶対パスで指定することもできます。デフォルトでは、このコマンドは既存の構成を上書きしませんが、-o オプションを使用すると上書きを強制することができます。productName パラメーターは、上記にリストされているうちのいずれかでなければなりません。

次のことに注意してください。

- -r コマンドを使用する場合、登録ファイルには XML 内の最初のタグとして <application> がある必要があります。

Marketing Platform データベースに構成プロパティを挿入するために使用できる他のファイルが、製品と一緒に提供されることがあります。これらのファイルには、-i コマンドを使用します。最初のタグとして <application> タグのあるファイルのみを -r コマンドと共に使用できます。

- Marketing Platform 用の登録ファイルは Manager_config.xml という名前と、最初のタグは <Suite> です。このファイルを新しいインストールに登録するには、

populateDb ユーティリティーを使用するか、 Marketing Platform インストーラーを再実行します (「IBM Marketing Platform インストール・ガイド」を参照してください)。

- 最初のインストールの後、Marketing Platform 以外の製品を再登録するには、configTool を -r コマンドおよび -o を指定して実行して、既存のプロパティを上書きします。

configTool ユーティリティーは、製品の登録または登録解除を行うコマンドのパラメーターとして製品名を使用します。 IBM EMM の 8.5.0 リリースにより、製品名の多くが変更されています。ただし、configTool が認識する名前は変更されていません。configTool で使用できる有効な製品名を、現在の製品名とともに以下にリストします。

表 11. configTool 登録および登録解除で使用する製品名

製品名	configTool で使用される名前
Marketing Platform	Manager
Campaign	Campaign
Distributed Marketing	Collaborate
eMessage	emessage
Interact	interact
Contact Optimization	Optimize
Marketing Operations	Plan
CustomerInsight	Insight
Digital Analytics for On Premises	NetInsight
Opportunity Detection	Detect
Leads	Leads
Interaction History	InteractionHistory
Attribution Modeler	AttributionModeler
IBM SPSS® Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition	SPSS
Digital Analytics	Coremetrics

-u productName

productName で指定されているアプリケーションを登録解除します。製品カテゴリーにパスを含める必要はありません。製品名は必須で、それのみで十分です。この処理は、製品のすべてのプロパティおよび構成設定を削除します。

オプション

-o

-i または -r と共に使用すると、既存のカテゴリーまたは製品登録 (ノード) を上書きします。

-d と共に使用すると、「構成」ページに「**カテゴリーの削除**」リンクがないカテゴリー (ノード) を削除することができます。

例

- Marketing Platform インストール済み環境の下の `conf` ディレクトリーの `Product_config.xml` という名前のファイルから構成設定をインポートします。

```
configTool -i -p "Affinium" -f Product_config.xml
```

- 提供された Campaign データ・ソース・テンプレートをデフォルトの Campaign パーティション `partition1` にインポートします。この例では、ユーザーが Oracle データ・ソース・テンプレート `OracleTemplate.xml` を Marketing Platform インストール済み環境の下の `tools/bin` ディレクトリーに置くことを想定しています。

```
configTool -i -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1|dataSources" -f OracleTemplate.xml
```

- すべての構成設定を `D:\%backups` ディレクトリーの `myConfig.xml` という名前のファイルにエクスポートします。

```
configTool -x -f D:\%backups%myConfig.xml
```

- 既存の Campaign パーティション (データ・ソース・エントリーを含む) をエクスポートし、それを `partitionTemplate.xml` という名前のファイルに保存し、それを Marketing Platform インストール済み環境の下のデフォルトの `tools/bin` ディレクトリーに保存します。

```
configTool -x -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1" -f partitionTemplate.xml
```

- Marketing Platform インストール済み環境の下のデフォルトの `tools/bin` ディレクトリーにある `app_config.xml` という名前のファイルを使用して、`productName` という名前のアプリケーションを手動で登録して、このアプリケーションの既存の登録を上書きするように強制します。

```
configTool -r product Name -f app_config.xml -o
```

- `productName` という名前のアプリケーションを登録解除します。

```
configTool -u productName
```

IBM 技術サポートへの連絡

文書を参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通じて IBM 技術サポートに電話することができます。このセクションの情報を使用するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択することにより表示できます。「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM アプリケーションについても、そのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番号を入手できます。

IBM 技術サポートのコンタクト情報

IBM 技術サポートとの連絡を取る方法については、IBM 製品技術サポートの Web サイト (http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントでログインする必要があります。可能な場合、このアカウントは、IBM 顧客番号とリンクされている必要があります。アカウントを IBM 顧客番号に関連付ける方法については、Support Portal の「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
170 Tracer Lane
Waltham, MA 02451
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件の考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的な事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置することを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、

および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan